

北朝鮮の山奥にある「強制収容所」をなくすため、多くの人びとに呼びかけています。

nf-staff@netlive.ne.jp

NO FENCE

<http://nofence.netlive.ne.jp>

VOL. 26

2013年11月

〒102-0093 千代田区平河町 1-5-7-203 TEL&FAX 03-3262-7473 【郵便振替口座】NO FENCE / 00180-1-707147

INDEX

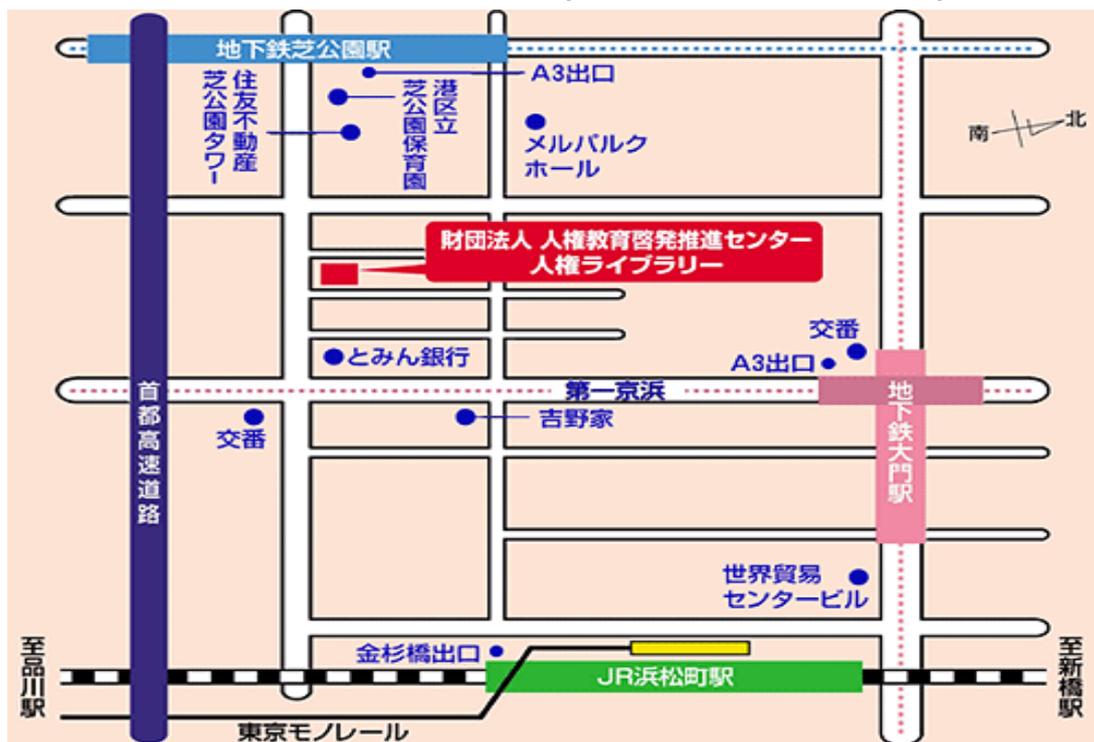
12月集会のお知らせ	1
強制収容所・人権・日本脱人妻望郷の歌 —10.19 集会報告— ・小川晴久	2
「北朝鮮が囚人に対して化学兵器を使用」 ・Aleksėjus Podpruginas (石田英樹訳)	5
人権(愛)は身近なところから ・宋允復	6
地道な聞き取りの厚み ・宋允復	9
共和国への一番大事な贈り物 ・細村嘉一	12

12月集会のお知らせ

日時 2013年12月14日(土) 午後1時-4時(予定)

場所 人権ライブラリー会議室(港区芝大門、地図参照)

- JR線浜松町駅(南口改札から徒歩7~8分)
- 都営三田線芝公園駅(A3出口から徒歩3~4分)
- 都営大江戸線・浅草線大門駅(A3出口から徒歩4~5分)



※詳細は後日お知らせいたします。

強制収容所・人権・日本脱人妻望郷の歌

—10.19 集会報告—

副代表 小川晴久 

10月19日(土)NO FENCEは久々に証言集会を開いた。メインは8月30日COI公聴会で強制収容所に関して証言された在日・帰国脱北者李相峰さんの話と歌を聴く集いであった。参加者は講師をいれて16名(会員5名、非会員11名)であった。

公民権を剥奪された者は人間ではない

李さんは収容所体験はしていない。しかし金日成の別荘を建てるため11号管理所を解体する作業に参加した貴重な体験の持ち主である。その話は会報12号に掲載されているが、今回はもう一つ貴重な話をしていただいた。

1979年の暮れの事である。帰国事業20周年記念として、外貨稼ぎをやらされた。在日帰国者の家で金の指輪やダイヤモンドがあればそれを供出させられたが、李さんのところは何もないので、山に入って砂金やまっただけ取りをした。家から4時間もかけて入ったところに鉄条網が敷かれていた。そのあたりは大きなまっただけが沢山あった。そこに鉄板に白いペンキで書かれた看板があった。警告文である。

警 告
この区域は 22 号
管理所区域であるから
無断者入山禁止！
これを破る者は
現地射殺に処す。

경 고
이 구역은 22 호
관리소 구역임으로
무단자 입산금지!
이것을 어긴자는
현지 사살에 처한다.

それを読んだ彼は恐怖に駆られ、急いでその場を離れたという。しかし彼はその警告文を一字一句今も鮮明に覚えているという。！符号まで。

このような看板で北朝鮮の人々は管理所というものが存在していることは知っている。しかしその中には反動分子がとらえられているので、一般に好感を以て見られていると。李さんは収容所の人間は、公民権を剥奪されているので、人間ではないと語った。体験者の手記によれば、収容所内の人間は人間のクズと見なされ、ひどい扱いを受けている。公民権を剥奪されても、人間は人間である。それを人間ではないと考えることは、人権という観念が全くないことを示して余りある。

北の人々に世界人権宣言を知らせよう

以下の内容は当日私が配布した資料で紹介したものである。ここで挿入する。

2007年9月日本に招いて北朝鮮の女性たちの人権状況を証言してもらった李エランさん(1997年8月に脱北し、韓国に亡命して梨花女子大学家政学部で教鞭をとっておられる)は、北にいたとき「人権という言葉が知らなかった。脱北して人権というものを知り、人権は共有の価値であることを知り、感動した」と語った。とても印象深かったので私はメモした。

思うに北朝鮮は1981年9月に、世界人権宣言を具体化した二つの国際人権規約に加入しているが、国内でこの内容を朝鮮語に直し、国民に知らせていないことは明らかになった。1995年日本に招いたヨドック収容所体験者安赫氏も北では人権という言葉が聞いたことがないと言って、われわれをびっくりさせた。韓国に亡命し、盛んに聴くので、大学の学生食堂で使う人券(インクオン—発音は人権と同じ。食券のこと)の事ではないかと思わされていたという。

世界人権宣言は長いものではない。次に示す4か条だけでいい。

「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利について平等である。」(第一条)

「すべての人は、生命、自由及び身体の安全に対する権利を有する。」(第三条)

「何人も、奴隷にされ、又は苦役に服することはない。」(第四条)

「何人も、拷問又は残虐な、非人道的な若しくは屈辱的な取扱若しくは刑罰を受けることはない。」(第五条)

中国は国連の常任理事国であるので、国連の重要文書はすぐに中国語で訳されてホームページに発表される。国連のホームページは、世界人権宣言にすぐにアクセスできるが、大陸の13億の中国人はその気になれば中国語訳の世界人権宣言に触れることができる。

北朝鮮の人々は世界人権宣言から最も遠い所にいる。韓国語訳はインターネットですぐに探し出せるので、上記した4か条だけでも朝鮮語訳を北朝鮮内の人々に知らせたい。皆さん、知恵を出し、その実践を始めようではありませんか。

日本人妻から教えられた望郷の歌

李相峰さんの証言に戻ろう。李さんは炭坑夫は食糧の配給がよかったので(一日900gに加えて米200gの栄養食)、志願して炭坑に入ったという。その炭坑街(人口1.5万)には日本人妻が14人いたという。ほとんど北は夕張から南は福岡まで炭坑地の出身であった。彼女らは日本人だけで集まる時は日本の歌をよく歌った。特に彼女たちの誕生日には。ギターの上手な李さんはよく呼ばれた。そこで何十回となく同じ歌を歌うので、知らず知らず李さんも歌を覚えてしまったという。

4 曲披露してくれた。先ず「赤とんぼ」—この歌は日本人妻林スミ子さんがよく歌った。彼女は後に病死。

次に「岸壁の母」—日本人妻辛スミさん(辛は夫の姓)の好きな歌。

次いで「なくな小鳩よ」—朝鮮人おっと安村敏栄さんが教えてくれた。

最後に「異国の丘」—安村敏栄さんとその妻で福岡出身の原弘子さんがよく歌っていた。

「誰か故郷を思わざる」も彼女たちから教わった。

「あなたは若いから日本に帰れたら私たちがこうして歌っていたことを皆さんに伝えてよ」。李さんは今日それを果たせましたと感無量であった。それにしても聴衆が少ない。もう一度もっと多くの人の前で歌ってもらう必要がある。

14人中李さんが2006年北を脱出した時は2人しか生きていなかったという。自殺、病死、餓死で。李さんは最後に叫んだ。2020年までに強制収容所を解体し、日本人妻たちも助け出して、彼女たちに東京オリンピックを観させたいと。

質疑の中で—国際脱北民連帯誕生も披露—

李さんは、質疑の中で、10月初旬ロンドンで海外に亡命した脱北民(脱北者と言わず)の世界組織が誕生したことを披露してくれた。イギリスに600名、ヨーロッパ全体で1500名、アメリカ180名、カナダ90名。韓国は3万名台、日本200名余。合わせると3万5千名余。実際の脱北を試みた人の数からすればはるかに少ないという。1919年上海に出来た上海臨時政府のような役割を果たしていきたいという。本拠地はどうもロンドンらしい。イギリス政府の協力的な姿勢が背後にある。うれしかったのはこの組織の目標の第一は強制収容所の解体であるという。第二の目標は「党の唯一思想体系確立の十大原則」の解体。的確な目標である。何よりも第一目標がNO FENCEの目標と一致しているのがうれしかった。

会員のみなさまへ

私たち「NO FENCE」は、北朝鮮の強制収容所をなくすためのアクションを展開するにあたって、会員のみなさまからの声を常にお待ちしています。

- ・北朝鮮強制収容所体験者の本を読んで感じたこと
- ・「NO FENCE」活動についての提言
- ・北朝鮮の強制収容所について日頃から思っていたことなど…

みなさまの心のこもった一言が北朝鮮の強制収容所をなくす原動力となります。

お問い合わせ(編集者) yi_ew@hotmail.com

BALTIC REVIEW より

「北朝鮮が囚人に対して化学兵器を使用」

(原題: North Korea used chemical weapon on its prisoners)

Posted by: Aleksejus Podpruginas, October 16, 2013

世話人石田英樹訳

内 戦中に一般市民に化学兵器を使用したことについて、世界中がシリア政府を非難し軍事活動の準備をしていた間、北朝鮮は強制収容所内でこの兵器を使用した。

北朝鮮は、拘置所内で囚人に対し化学兵器の有効性を試験していた。ニュースサイトの「38 North」は、閉鎖的なその国からの脱北者が、子供も含めた家族がこの方法で殺された恐怖を世界中に説明したことを報じた。

「North 38」のサイトを運営しているジョンズ・ホプキンス大学は、それらの実験は、隔離された収容所、および地域で行われたと主張した。既知情報に基づくと、北朝鮮の軍隊は、約20種類の化学兵器を所有する。その報告書は、北朝鮮は以下の化学兵器を所有していると主張した。

- ・アダムサイト(DM)
- ・クロロアセトフェノン(CN)
- ・クロロベンジリデンマロンニトリル(CS)
- ・塩素(CL)
- ・塩化シアン(CK)
- ・シアン化水素(AC)
- ・アブラナ科(H, HD or HL)
- ・ホスゲン(CG and CX)
- ・サリン(GB)
- ・ソマン(GD)
- ・タブン(GA)
- ・V-化学物質(VM and VX)

それらすべてのガスは極めて有害である。シリアでは、サリンは今年の夏に軍隊が使用したありふれた化学兵器だった。

本 名が公開されていない脱北者の一人は、22号管理所で看守を務めていたと主張し、健康で力強い人々に対してその実験が行われたと述べた。彼の報告書に基づくと、それらの人々はガラスの部屋に入れられ密閉され、その後ガスが挿入された。専門家はその人々の死を観察し、この特異なガスの有効性を検査した。彼はまた、一家全員がガス室に閉じ込め

6頁へ続く ➡

られるのを見た」と主張した。その両親は子供たちを心肺蘇生法を用いて救おうと試みたが、結局彼らは皆死んだ。

その報告書は、それらの証拠を確認するのは極めて難しいと主張する。他の恐ろしい証拠は、特殊作戦部隊のメンバーでそれらの死刑執行に参加したチョンヨンからのものである。彼は、同じような実験が黄海の離島で行われたと主張する。

この報告書の最も憂慮すべきところは、1990年代から北朝鮮が化学兵器、化学物質、技術をエジプト、イラン、リビア、シリアに供給してきたという点である。それらの国の政治情勢は全く安定していない。いわゆる「アラブの春」と呼ばれる革命以降は特に、多くの軍事組織がそのような兵器を取り扱おうと試みるであろうことが推測される。この状況はすべての中東諸国にとっての脅威である。シリアは化学兵器の保有を廃止することに同意した最初の国家である。

ダマスカスとピョンヤンとの間の緊密な関係は、2007年から見られる。今年の7月に、アレppoの近くで化学兵器の保管場所における事故があった。その報告書では、化学弾頭を搭載したミサイルが早まって爆発したときにシリアと北朝鮮の人員が殺されたその事故については確認されなかった。

最近北朝鮮は、軍隊があらゆる事態に対する準備ができていると脅迫した。そのような脅迫の後、ソウルとワシントンは軍事同盟と合同軍事演習を黄海で行うことに合意した。

人権(愛)は身近なところから

事務局長 宋允復 

8月28日、来日中のロバート・キング北朝鮮人権問題担当大使と話す機会があった。

会 寧 22号収容所の餓死によると思われる近年の収容者の減少と閉鎖、残る収容者の他所への移送等、NO FENCEがこの間入手した情報を披露しつつ、「証拠隠滅のための意図的殺害の可能性を憂慮している。この懸念を米国はじめ国際社会で共有し、北朝鮮に歯止めをかけたい」と話した。

これを聞いていたキング大使が「つい昨日デイビッド・ホークが送ってきたレポートがその件に触れていた」という。

当日帰宅して米国北朝鮮人権委員会(HRNC)のホームページを開くと当該のレポートがすでに掲載されていた。

[http://www.hrnk.org/uploads/pdfs/NKHiddenGulag_DavidHawk\(2\).pdf](http://www.hrnk.org/uploads/pdfs/NKHiddenGulag_DavidHawk(2).pdf)

HRNK の他の先行レポートでは「衛星写真からは22号がまだ稼働しているように見える。解体の情報は偽装工作の可能性があるとされていたが、その見解を修正し、2012年の22号解体は事実と確認した上で、収容者の移送先も探っている。さらに2006年から2007年

ごろの北倉 18 号収容所の『解除』と一部収容者の移送も踏まえて、現在稼働中の収容所の数と収容者数を推計している。特に、1996 年ごろから近年まで『15 万人から 20 万人』とするのが一般的であった政治犯収容所の収容者数について、韓国政府系の統一研究院のレポート『北韓政治犯収容所』(今年 1 月発行)にある『8 万人から 12 万人』とする推算を「さらなるリサーチが必要」と留保を付しつつも肯定的に引用・紹介している。

※統一研究院の『北韓政治犯収容所』(韓国語)は下記からダウンロードできる。

http://www.kinu.or.kr/report/report_04_01.jsp?page=1&num=154&mode=view&field=&text=&order=&dir=&bid=DATA05&ses=

この『8 万人から 12 万人』という見積もりに疑義を呈しているのが北韓人権情報データベースセンター(NKDB)。

NKDB は 2011 年 7 月の段階 13 万 5 千人という推算を打ち出しているのだが、例えば 14 号の人数について、14 号で生まれ育ったシンドンヒョクは自身の経験と見聞から 5 万人としており、NKDB はそれを支持しているのに対し、統一研究院は 1 万 5 千人としているが、その具体的根拠は示していない。この 14 号だけでも 3 万 5 千人のずれがある。

現在 NO FENCE としていずれが妥当かを性急に吟味したい意図はないものの、見解を質したい論点がいくつかあるにはある。

十月中旬、宋が所用でソウルに滞在した機会に、統一研究院と北韓人権情報データベースセンター(NKDB)を訪ね、意見交換を行った。



『北韓政治犯収容所』をまとめた統一院の北韓人権社会研究センター専任研究員 李琴順(イ・グムスン)さんに連絡を取ったところ、急なお願いにも関わらず、多忙なスケジュールの中、時間を取っていただいた。李さんのスタッフ数名も

同席しての 1 時間あまりのやり取りに加え、昼食も共にしながら話を交わした。

李さんは、「レポートは昨年末までに集積したデータを活用したものだが、単に収容所経験者本人だけでなく、何らかに関わりや見聞のあった人はデータベースに蓄積していて、それを活用した。米 HRNK ではこれまで 22 号の解体について懐疑的な見方を公表していたが、我々は周辺地域の住民の見聞も收拾・蓄積していたので解体は事実と判断し今年 1 月に発表した。今になって HRNK がそれを追認しているが、我々の判断は正しかったと自負している」と鼻息が荒い。

今年に入ってから新たな証言を引き続き集積しており、またまとめる予定だという。

『北韓政治犯収容所』では、会寧 22 号管理所の閉鎖に加え、北倉 18 号管理所の『解除』と一部収容者の 14 号管理所隣接区域への移送も踏まえて、大規模政治犯収容所の数を従来の 6 つから 4 つ(14 号、15 号、16 号、25 号)とし、その収容人員を計 8 万人から 12 万人ほ

どと推算(李さんの言によれば「確たるものではないおおよその推算」)。人数減少の理由として、食糧・医療等が劣悪な中で過酷な強制労働に服する故に引き続き死亡していったであろう一方、独裁体制は比較的安定的に維持され、新たな政治犯の発生は相対的に少なくなり、補充が減少を上回るには至らなかったのではないかと推論している。

これについて宋からは、上記推論に一定の妥当性はあるだろうと首肯しつつ、

①まだ知られていない収容所が存在するのではないかと。例として社会安全部、現人民保安省管轄の17号が1997年ごろ咸鏡南道大興に再興され、1998年3月、18号から1万5千人が17号に移送されたとの証言を伝えた。

②既存の収容所の拡張による収容能力の拡大。例としてヨドク15号管理所の拡張に関するアムネスティ・インターナショナルの2011年のレポートに言及した。

李さんは前者については「衛星写真を見ながらある程度の規模以上の収容施設とみなせるところを探しているが、新たなものは見出せていない。しかし衛星写真でその地域にそれらしい施設があるか調べてみる」とのことであった。

後者については意識的に検討してはいなかったようだ。

また上記収容所の現況の推移に関して、『22号に関して膾炙される近年の急激な人員減は、食糧の無理な供出などによる証拠隠滅を目的とした意図的殺害ではないのか』という宋の懸念について意見を交わす中で、「有事の際は収容所の囚人は全員殺すことになっている」との複数の収容所出身者、関係者の証言について宋が言及した際、李琴順さんは、「それは、そういうことがあり得るのではないかとという憶測であって、具体性のある話ではないと理解しているのだが」と反問する。

95年から収容所出身者、関係者から聞き取りをしてきたなかで得た、元咸鏡北道道保衛部要員(25号)、李英秀(15号)、任正秀や康明道(18号)、安明哲(22号)等々、「有事の際には抹殺する」各収容所の個別具体的方法、態勢についての証言に触れつつ、「単に有り得るといふ類の想像ではない。収容所によっては具体的な訓練も実施している」と伝えた。それでも李琴順さんは「そうした話は、国際社会の関心が高まってきた近年になって言い始めたと見える。注目を惹きたい意図で誇張されたものではないだろうか」と食い下がる。



※宋の下手な筆致では何かぎすぎすしたやり取りを続けたかに読めるのだが、さにあらず。対話の雰囲気は写真から汲んでいただきたい。お土産に同チームが制作した収容所概説のDVDまでわけていただいた。いきなり押しかけたのに温かく対応していただいた李琴順さんとチームの方々に感謝。



そこで「ロイヤルファミリーの一員であった康明道自身も90年から92年にかけて18号に収監されていたが、その間に18号の元倉庫責任者から『何か起きたら囚人は坑道に詰めて爆破して殺すことになっている』と聞き、それを韓国に亡命して1年も経たない95年に出版した手記に記している」(日本語訳は康明道著『北朝鮮の最高機密』文芸春秋社95年10月刊)と伝え、今後はこの点にも留意しリサーチしてほしいとリクエストした。

🦋 地道な聞き取りの厚み

事務局長 宋允復 🦋

北韓人権情報センター(NKDB)北韓人権記録保存所の尹汝常(ユン・ヨサン)所長と久しぶりに会う。たしかシンドンヒョクの著書の出版記念会以来なので何年振りだろう。事務所も移転しており、景福宮駅から近く至便。

ホーク氏は4月にソウルで取材をしたが、NKDBも同時期に同じテーマで調べていたという。収容者の行先とその人数などを詰めるには22号と18号関連の情報が足りないと判断しレポートの発刊は見合わせたNKDBに対し、ホーク氏はジョージ・ソロス氏の財団 The Open Society Foundations からの資金提供を受けており、発刊せざるを得なかったようだ。

毎月5人から10人と新たに韓国入りした脱北者の聞き取りを続けているNKDBの研究員が22号絡みでいくつかの断片情報をシェアしてくれた。

○解体された会寧の22号には、周辺の協同農場や炭鉱から人々を移住させたが、その移住した知人を訪ねて今年2月に22号の行営里と洛生里に入った者の話では、70歳代、80歳代の年老いた収容者の一部はそのままその地域に住んでいた。その収容者は「私たちは年をとって役に立たないからそのままここに留め置かれたが、自分の息子は去年の12月に江原道に送られた」と語っていたという。

○2011年12月25日に列車に乗ろうと会寧駅に向かったが、保安員たちに遮断されたという者



🦋 右が所長のユン・ヨサンさん 左が研究員の金仁星さん(若いがゆったり穏やかに人の話を聞き出せる名手と見受けた。奥さまは日本の方だそう)

の話。明るい日中だったが、遠くから貨物列車に囚人たちを載せるのが見えたという。『会寧駅』の看板は覆われていた。囚人たちにここがどこなのか分からないようにするためだったと思われる。「囚人は夜中に移送している」という目撃証言や伝聞情報は複数得ていたが、昼の目撃証言は今回初めて)

○セツピョル郡のある住民は、友人が22号から石炭を運び出す仕事をしていたが、2012年5月に22号に石炭を引き取りに行った際、収容所の者から「今回が最後の炭だ」と言われたという。

○22号が解除された理由について、聞き取りを続けているNKDBでは、22号の管理者側の者が一人脱北したのが大きいと見ている。昨年には「所長が逃げた」と一部で報じられましたが、会寧地域で回っている話を総合すると、「2011年ごろ看守の一人が脱北した」のであり、秘密露見を恐れた北朝鮮が22号を「疎開」させたという。疎開先(22号の人員や設備等の行先)についてはまだ定かには把握できていないのが現状。(韓国の某媒体の記者が伝手のある情報当局者に当該脱北者は韓国入りしたのか確認を求めたが「答えられない」という返答であった。同記者の感触として、韓国入りしたものと受け止めているという)

☆ ☆ ☆

昼食もご一緒していろいろと伺う。当日は午後2時ごろから脱北者への教育プログラムを実施するとあって、ここでもりポート各種をどっさりいただいて退散。(日本に戻りそろりそろりと目を通してはいるのだが情報の厚みがすごい)



↑ 次の展開に向け意気軒昂な金尚憲理事長

翌日、ソウル市役所近くの国家人権委員会でNKDB主催のセミナーをやるということで訪ねたら、NKDBの創設者 金尚憲理事長が開会の辞で熱弁を振るっていた。

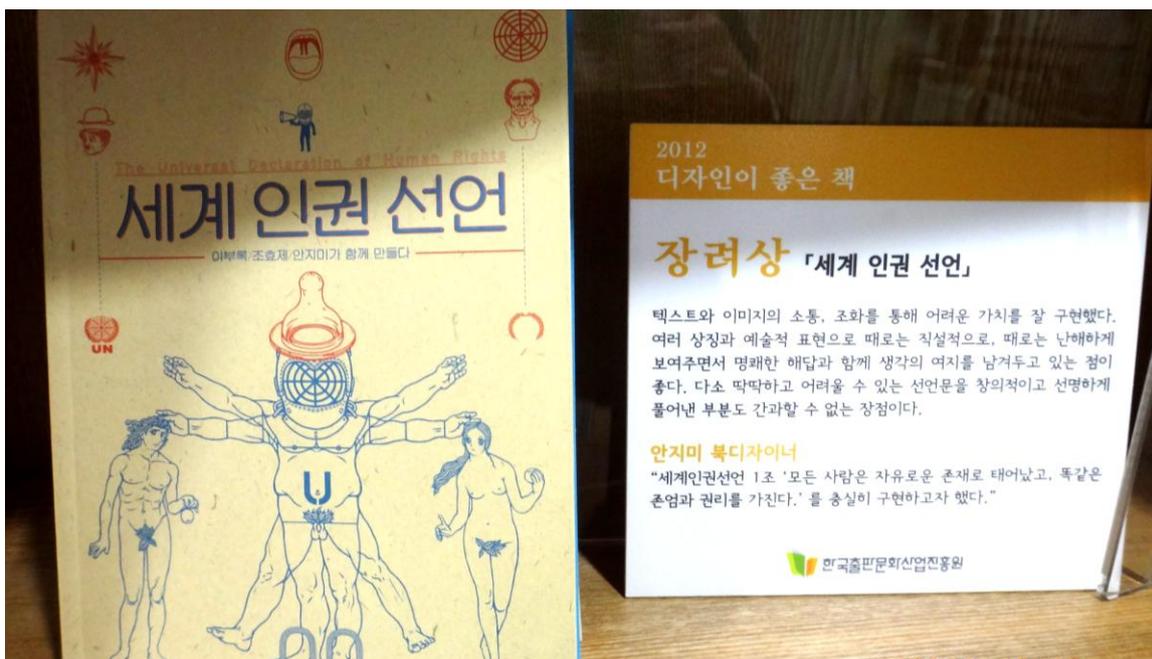
NKDBが身を削るようになってまとめ英訳し蓄積してきた聞き取りの資料は、設問調査で万人単位、個別のインタビューでは数千人分に上る。これを国連COIの委員、スタッフたちが

たいへん喜び、活用していることを「これまでの労苦が報われた」と述懐する。これまでは蓄積に力量を集中していたが、その資料が国連レベルでオーソライズされることになった今、その効果的活用に知恵を絞りたいという。

セミナー終了後、「話そうじゃないか」とお声掛けいただいたので、マックでしばし。手振り交えての熱弁ここでも止まらず。

弟子筋のジョン・ペドロ、金ヒテ両氏が北朝鮮におけるキリスト教迫害をテーマにして絵本を出版したのだが、韓国にあまたある教会の支援、需要を当て込んで初版 1 万部を刷ったものの、まったく捌けず頭を抱えている由。千部刷って捌けたらまた刷ればよいものを、まったく…

宿への帰途、旧ソウル市庁舎をのぞいたら大型図書館に変貌しており、その充実ぶりにびっくり。ふと壁の棚に寄って見ると、グッドデザインに選定された『世界人権宣言』の韓英対訳本が。「『世界人権宣言第一条 すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である』を忠実に具現せんとした」というデザイナーの言。よし！



共和国への一番大事な贈り物

世話人 細村嘉一 

10月19日の学習会で脱北者の李相峰氏のお話を聞いた。数日たって、ふと、小瓶に砂金を集めた話を思い出した。砂金をとるために、何週間と山河にこもり、何tもの砂をさらって砂金をあつめるという話だ。相も変わらず非効率なことをしているという話題だが、どうしてそんな非効率なことをするのか、疑問や反発心はもたないのか、という気持ちになりかけて、ああ愚問だった、反発心を持つと血縁が滅びる国だったということ思い出した。

タイトルに戻るが、相手が不足しているものほど、贈り物としての意義は大きい。共和国に絶対的に欠けていて、そして受け取ったときに最もためになるものは何か、それは共和国上層部への批判であろう。共和国発展のためにも必要不可欠な上層部政治の反省や見直しの提言は、共和国内部では一切できない。

私たち外部の人間が、共和国のためを思い、交渉の対価として与えるべきものは、お金でも、食料でもなく、上層部への批判と、共和国民への情報であろうと思う。

先日参加された拉致対策本部の方へ、私からのメッセージとしては、ぜひとも談話として、日本国政府から北朝鮮の逸話の一つ一つ、政策の一つ一つに対し、問題点や、北朝鮮発展の妨げになっていることを、北朝鮮上層部に届けてほしい。回り道かもしれないが、北朝鮮の担当者の良心を引き出す環境を、上層部批判と上層部自身の改革によって構築しなければ、拉致問題解決のゴールは見えないように感じる。

民間の私たちにできること、それは自由な発言を許される日本社会の環境を、先人への感謝の気持ちと共に最大限に活用し、共和国を意識した情報発信を続けることだと思う。最後に最近気になったWEBアドレスを紹介して、本投稿をめる。

- ・ 我が民族同士：北朝鮮政府が関与しているWEBサイト
<http://www.uriminzokkiri.com/>
- ・ 我が民族同志：わが民族同士のパロディーサイト
<http://www.uriminzokkiri.com/>

